

はじめに
平成16年3月に東総
広域水道企業団を退職、
(財)千葉県薬剤師会
検査センターに勤務し



「黒部川の水質
改善を強く望む」
(執筆者)
NPO法人水道千葉
理事 名馬 輝直

地域・E・I・Z・Aの声

地域を守る潮止堰
河口堰だより

発行所
独立行政法人水資源機構
利根川下流総合管理所
利根川河口堰管理所
TEL 0478-86-0477

て、早や2年8ヶ月が過ぎてしまいました。関係者皆様には公私共にお世話になりましたことを、この誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

団塊世代の2007年問題を視野に水道技術の継承を趣旨として、今年4月に千葉県内の水道OBによるNPO法人水道千葉を発足しました。

8月末に黒部川の水質保全を目的に、関係者による勉強会を開催したいので、「NPO法人水道千葉」の立場で、黒部川水質の現状と対策等について講演の依頼が利根川河口堰管理所からありました。黒部川は、東総地域における人々の生命の源

であり、長年の水道処理に苦慮してきたことから多くの思い出や愛着が広がります。利根川下流及び黒部川の水質を良くしようとする思いは今も変わりません。水環境は皆で良くしなければならぬとの信念から講師を引き受けました。

【概要】
この勉強会には、流域の関係行政及び水道事業体職員の方々が多数参加し、前半は、船で黒部川及び利根川下流の河口堰付近から陸地を展望し、黒部川へ流入する排水の状況を視察すると共に、パンクテストなどによるCOD等の現地測定を体験し、黒部川と利根川の水質を比較しました。

その後、テーマを「水環境と水質汚濁」、サブテーマを、「流域対策」と題し、具体的に

は、①地球上における水収支と水循環②黒部川水質の現状と対策(清流ルネサンス21計画)③浄水処理と水道界の展望④流域対策の取り組みなどについて話をしました。

【地球上の水循環と水問題】
地球上における使用可能な水は、水循環の一部分である淡水として、僅か0.01%で限りある貴重な資源です。21世紀は水の世紀と言われ、この主たるところには、人口問題があります。日本の人口は2005年の国勢調査(速報値)で1億2776万人、2004年の総人口1億2778万人に対して約2万人の減で、既に人口は減少傾向に突入しています。さらに、2050年の推計人口は1億59万人であります。一方、世界の総人口は2005年の64億4500万人に対して20

50年には89億1900万人(人口問題研究所資料より)で約25億人の増加と推計されています。世界的人口増加に伴い、地球規模での水使用量は増大し、水質汚染問題がより深刻となります。また、食料問題があります。米1トン作るのに水1900トンが必要と言われ、我が国においては穀物や家畜等の生産に必要な水は間接水として、総輸入量は約744億トンもあると言われています。

地球上の水収支と世界の人口増に伴う使用可能な水資源の貴重さについて、その概要を記しました。

誌面の都合により、執筆者の文章を一部構成とさせていただきます。次号では、黒部川の水質と対策等について掲載させていただきます。(編集担当者)

短信・河口堰

黒部川の水質



こんなにゴミが!

10月29日(日)に東庄ライオンズクラブ、笹川漁業協同組合、東庄町、愛約会、七花会、河口堰管理所などの有志60名が集まり清掃活動を行いました。黒部川及び折沼川の堤防沿いや水辺には投棄された空き缶、空ビン、ビニール、廃材等があり、その回収と可燃物、金属類の不燃物、缶、瓶に分別を行いました。朝方までの雨が残るあいにくの天候でしたが、清掃作業を行った午後にはその心

配もなくなり当管理所の4名も黒部川右岸約1kmの清掃に汗を流しました。また、11月21日(火)には、水道水源の清掃作業として旭市、東庄町、東総広域水道企業団、水資源機構(利根川下流総合管理所)の有志29名が集まり本年2回目(6月6日に1回目実施)の黒部川流域の清掃活動を行いました。



清掃活動を行った有志

当管理所では、黒部川をきれいに、大切にしようと感じて下さる方が増える事を目的に実施されているこのような活動に、今後も積極的に参加していきます。

生物図鑑

サルの尻毛カニ?

モクズガニは、成長して大きくなると、ハサミに長い毛がはえることが特徴で、川に生息していますが、秋から冬にかけては産卵のために海へ下ります。

孵化直後は「ゾエア幼生」といい、プランクトンのミジンコのような容姿で、体長は1ミリにも達しません。そのあと脱皮を繰り返して、エビのような容姿で、体長2ミリほどの「メガロバ幼生」に成長します。これら幼生は塩分のある海でしか生活できないのですが、成長すると川(淡水域)をのぼりはじめます。このように川と海を行き来することを回遊といいますが、モクズガニの場合は、サケが産卵のために川を遡上するのは逆で、

海へ下って産卵するタイプです。

モクズガニは「モクゾウガニ」と呼ばれたり、各地で別名がたくさんあります。また、同属にチヌウゴクモクズガニというものもいますが、これは食用で有名な上海ガニのことです。

カニが出てくる民話といえは「さるかに合戦」が有名ですが、別伝ではカニがサルの尻の毛をハサミでむしりとったため、サルの尻には毛がなくて、カニのハサミには毛があるとか?そういう話もあるそうです。



送げるカニを激写!!

みなさんは、当管理所のホームページをご覧になったことはありますか? もし、まだ見たことがない方は、是非一瞥になってください。河口堰の動きや水位状況、潮位、イベント案内など、この「河口堰だより」では、紹介することが出来ない、ホットな情報を掲載しています。また、こんな情報をホームページに掲載してほしいなど、ご意見等もお待ちしております。

(編集担当者)

編集後記
この広報紙に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等は下記までお寄せ下さい。また、掲載料も受け付けています。下記までご連絡ください。
〒289-0611
千葉県香取郡東庄町新宮2276番地
水資源機構 利根川下流総合管理所
利根川河口堰管理所
TEL 0478-86-0477
FAX 0478-86-3457
E-mail : tonekako@topaz.ocn.ne.jp

利根川下流沿川紀行

旧佐原中心街

江戸時代中頃から利根川は江戸とを結ぶ舟運時代の重要な交通路であった。

利根川下流域沿岸の各町村は環境に恵まれ農業が盛んで、またその気候風土は、醤油、酒、味噌などの醸造に適し、これらも盛んであった。

佐原の街中を流れる小野川沿いの忠敬橋付近にある、伊能家を中心として当時の瓦葺き屋根の織造りの家が並び、それぞれに石の護岸で「出し」といわれ



出し

る船着場が現在もそのまま残されている。

古い町並みには、伊能忠敬の旧宅があり、国指定史跡に指定されている。また、洋風建築の旧三菱銀行など県指定文化財に指定されている8棟の旧家があり、その他にも伝統的建造物が60棟くらい残っている。



忠敬の旧家



旧三菱銀行

新任のご挨拶

10月1日の人事異動で、高橋前所長の後任として、利根川河口堰管理所長として赴任しました。荒谷慶太です。

利根川河口堰は、昭和46年4月に管理を開始して以来、今年の四月で35周年を迎えることができました。この間、利根川河口堰が「地域を守る潮止堰」として、また、都市用水や農業用水を生み出す施設として、その役割を十分果たしてくることができました。これまで河口堰の管理を順調に遂行してきましたのは、地域の方々や利水者の皆様のご理解、ご協力並びに関係機関の方々のご指導の賜だと深く感謝しております。

皆様も既にご存じのとおり、平成15年10月に水資源開発公団から独立行政法人水資源機構へ、また、平成17年4月には利根川河口堰

管理所と澁ヶ浦開発総合管理所が統合され、利根川下流総合管理所として生まれかわりました。これらを契機として、職員の更なる意識改革の徹底や意識向上に努めるとともに、地域の皆様のニーズを把握することを目的とした情報交換会や勉強会の開催、河口堰を知っていただくための広報活動の展開、地域との交流を深めるイベント等への参加など積極的な活動に努めてまいりました。また、これらの活動については、職員一丸となって、今後も継続的に取り組んでまいりたいと考えております。

さて、この「河口堰だより」は、平成15年9月の創刊以来、約3年が経過しました。この間、この誌面を通じて、河口堰に関わるさまざまな情報の他、「地域・ユーザーの声」や「利根川下流沿川紀行」などシリーズ化した情報

伊能 忠敬

伊能忠敬は、延享2年（1745）上総国山辺郡小関村（現九十九里町）で生まれ、幼名、小関三治郎といました。

佐原で代々名主であった伊能家は、酒造・米穀などを扱う廻船問屋を営んでおり、そこに入り婿となった三次郎は名を忠敬と改め、商売筋の生活で伊能家を繁栄させました。

そして、寛政6年（1794）に家督を息子に譲り隠居し、翌年、深川黒江町に住む幕府天文方、高橋至時を訪れ天文観測を学び、56歳の時日本全国の測量の旅に出て、以後72歳迄に我が国最初の正確な日本地図を完成させるという前人未到の大事業を成し遂げました。



も皆様に紹介してきましたが、さらなる誌面の充実をはかり、今後にも継続して利根川河口堰に関する情報を提供してまいります。また、この情報誌の他にも、堰の管理に関する管理情報（堰の操作状況、堰流入量、水位、塩分濃度等）を、リアルタイムでホームページに掲載しております。これらの情報を通じて利根川河口堰に関する知見を深めていただければ幸いです。

最後になりますが、利根川河口堰が「地域に親しまれる河口堰」、「地域の象徴となる河口堰」、「地域に誇れる河口堰」となるよう期待しております。



所長 荒谷慶太

佐原の大祭

佐原で毎年秋3日間行われる秋祭りには、諏訪神社を中心として高さ5mの大きな江戸人形を乗せた総ケヤキ造りの山車14台が運行するという、関東では最大規模の祭りが行われている。



大祭 パンフ

八坂神社の隣には「水郷佐原山車会館」があり、中には山車が、常時2台展示され、他に記念映像などの資料が保管されている。

山車にどうして「大人形」を乗せるようになったか、これは2つの説があり、一つは、各集落毎に神社へお供え物を運んだ「大八車」で行っていたものを、当時の水運業者や酒・醤油醸造業者など、そ



神武天皇



源 義経

（利根川愛好会会長 林 敏夫）

短信・河口堰

黒部川に水仙ロード

10月21日（土）に、黒部川沿いの堤防にある遊歩道の桁沼川から蘆藪橋までの間、約2kmに1万個の水仙を植えようと、1,500人もの人が集まりました。

このイベントは、千葉県が観光客増を目的に行うキャンペーンが来年2月から3ヶ月間行われることから、東庄町にも多くの観光客をと、東庄町と観光協会によって企画されたもので、当管理所からも家族と一緒に参加しました。

東庄ふれあいまつり

黒部川の水質浄化のための活動を展開している当管理所からも積極的に参加しました。「第19回東庄ふれあいまつり」は、東庄町が毎年行っている祭りです。イベント内容も豊富で、約1万人の方が参加されました。東総用水管理所と利根川河口堰管理所でも並んで出展し、両管理所の事業についての認知度アンケート（500名）やパネル展示を行い、それぞれの実業について説明を行いました。



水仙を植えている様子



大盛況の水機構ブース